

年表



- 1643 (寛永20)年
 - ・オランダ人フリースの探険により、ヤンソニウスの地図に幌別がパラピツの名で世界に紹介される
- 1669 (寛文9)年
 - ・シヤクシャインの乱で、幌別コタンの長チメンハが、事実上の全軍指揮官として参戦、シズカリ(静狩)の最前線で戦死
- 1800 (寛政12)年
 - ・伊能忠敬、東えぞ地の測量に着手し、6月幌別を測量する
- 1838 (天保9)年
 - ・登別温泉にゆかりある岡田半兵衛が幌別場所請負人になる
- 1845 (弘化2)年
 - ・松浦武四郎、初めて登別温泉に立ち寄る
- 1857 (安政4)年
 - ・岡田半兵衛、私費で登別温泉の新道を改修する
- 1858 (安政5)年
 - ・岡田半兵衛、登別温泉に湯治止宿小屋を建てる
 - ・登別温泉の先駆者・滝本金蔵、登別村に移住
- 1859 (安政6)年
 - ・幌別が南部領となる

- 1869 (明治2)年
 - ・開拓使が設立される
 - ・元白石城主・片倉小十郎邦憲、開拓使より、幌別郡の支配を仰せつけられる
- 1870 (明治3)年
 - ・幌別開拓役所設置
- 1871 (明治4)年
 - ・片倉旧臣21戸67人並びに職人13人が第1回移民として幌別に着く
- 1871 (明治4)年
 - ・片倉の第2回移民45戸177人並びに職人15人が幌別に着く
- 1874 (明治7)年
 - ・幌別村字浜町に刈田神社を創建
- 1874 (明治7)年
 - ・片倉景範開拓使貫属となる
- 1877 (明治10)年
 - ・幌別郡各村戸長役場をおく
- 1881 (明治14)年
 - ・片倉景範が札幌郡上白石に転居
- 1882 (明治15)年
 - ・幌別分校を独立して幌別小学校とし、矢内信任の邸を校舎とする
- 1882 (明治15)年
 - ・開拓使を廃し、函館・札幌・根室の3県をおき、幌別郡は札幌県の所管となる
- 1886 (明治19)年
 - ・ジョン・バチエラーはルイブ夫人と共に幌別に来住、伝道に従事する
 - ・日野愛喜が屯田兵用地測量の技師を案内中、字ペンケネセに温泉を発見する(後のカルルス温泉)
- 1888 (明治21)年
 - ・バチエラー相愛学校を幌別130番地に設立
- 1892 (明治25)年
 - ・炭鉱鉄道会社鉄道線路中、室蘭・岩

- 見沢間の運転開始
- ・幌別・登別の2停車場開業
- 1901 (明治34)年
 - ・登別温泉と登別間の新道が完成、2頭びき客馬車が走るようになる
 - ・室蘭と幌別の境界が決定
- ・鷺別駅設置
- 1902 (明治35)年
 - ・樵夫が溪流中に露出している硫黄鉱床の露頭を発見、これが幌別鉱山のはじまり
- 1905 (明治38)年
 - ・カルルス温泉が旭川陸軍予備病院の療養所となる
- 1906 (明治39)年
 - ・小田良治が旭坑を開く。金銀銅鉱の採掘並びに製錬業を開始する
- 1907 (明治40)年
 - ・早川某岩ノ崎で試掘を行う。これが本市における鉱山試掘のはじまり
- 1908 (明治41)年
 - ・川又兵吉が鉱泉を発見、川又温泉と命名される
- 1915 (大正4)年
 - ・登別温泉軌道会社が馬鉄を開通
- 1917 (大正6)年
 - ・登別温泉に電話開通
- 1918 (大正7)年
 - ・幌別郵便局で電話(窓口通話)開始
- 1919 (大正8)年
 - ・登別・登別温泉間に軽便鉄道開通
- ・幌別郡3力所を大字とし、幌別村と



- する。幌別村に2級町村制が施行
- ・幌別村第1回村会議員選挙施行
- ・幌別村第1回村会議会開催
- 1920 (大正9)年
 - ・第1回国勢調査実施。幌別村戸数1千47戸、人口7千11人
- 1924 (大正13)年
 - ・登別原始林が天然記念物として内務省より指定
- 1925 (大正14)年
 - ・登別・登別温泉間に電車が走る
- 1935 (昭和10)年
 - ・北海道大学医学部付属病院登別分院設立
- 1942 (昭和17)年
 - ・日鉄輪西製鉄所社宅1千450戸建設着手
- 1945 (昭和20)年
 - ・役場庁舎新築移転
 - ・国立登別病院開設
- 1946 (昭和21)年
 - ・厚生年金登別整形外科病院開設
- 1947 (昭和22)年
 - ・大石橋与作が初代公選村長に就任
 - ・六三制教育実施により、幌別・鷺別・登別・登別温泉の4中学校開校
- 1948 (昭和23)年
 - ・幌別農業協同組合設立
- 1949 (昭和24)年
 - ・幌別漁業協同組合設立
- 1950 (昭和25)年
 - ・登別上水道給水開始
- ・登別漁港着工

